



株式会社エンプラス

(証券コード:6961)

よりよき明日を目指して

2026年3月期(第65期)中間報告書
2025年4月1日から2025年9月30日まで

enplas





株式会社エンプラス

Contents

- 01.企業理念
- 02.株主の皆様へ
- 04.連結業績の推移
- 05.事業別概況
- 06.ESGの取り組み
- 07.特集：エンプラスのサステナビリティ
- 09.会社概要/株式情報/株主メモ
- 10.グローバルネットワーク 国内ネットワーク
- 卷末.グローバルネットワーク 海外ネットワーク

企業理念



使命

独創的アイデアを総合技術で価値ある製品に変え、
より良い未来を支えます

経営姿勢

強靭な経営基盤をもとに、創造と挑戦を繰り返し、
自ら変革し続けます

行動指針

- 信頼こそ全ての基本
- ・謙虚な姿勢と感謝の心を大切にします
- ・公明正大に行動します
- ・新たな価値の創造に挑戦します

株主の皆様へ

私たちはソリューションプロバイダーとして、より良い未来の実現に向け、さまざまな企業活動に取り組んでおります。



代表取締役社長 横田大輔

Q

上期の経営実績と事業環境についてお話し下さい。

当中間連結会計期間の売上高は20,901百万円(前年同期比6.1%増)となり、営業利益は3,051百万円(前年同期比9.0%減)、経常利益は3,080百万円(前年同期比2.0%減)、親会社株主に帰属する中間純利益は2,247百万円(前年同期比7.3%増)となりました。

各セグメントの業績につきましては5ページに掲載しております。

世界経済は、中国経済の停滞継続や米国の通商政策等により先行き不透明な状況が続いております。

当社を取り巻く環境は、地政学リスクの高まりや米国の通商政策による世界経済の減速懸念など、依然として先行きの不透明な状況が続いております。このような状況の中で、当社は持続的な成長の実現のために、成長市場であり人と地球のQOL(クオリティ・オブ・ライフ)を高める領域を

Essential領域と定め、この領域への事業ポートフォリオの転換を進めてまいります。その中でもAIの社会実装に向けた事業機会を最大限に獲得するため、各事業が事業領域を広げ、ソリューションプロバイダーとして顧客価値を創出してまいります。またグローバルガバナンスの強化による信頼と業務品質の向上、グローバルでの企業理念の浸透活動の推進、社員一人ひとりが最大限能力を発揮できる職場環境の実現により、当社グループの経営基盤を強化してまいります。

Q

中期経営計画についてお話し下さい。

当社はこれまで社内では中期経営計画を策定しておりました。事業環境が急激に変化する中でも変わらない当社の創業の精神である企業理念、長期ビジョン、中期経営計画を公表することにより、あらゆるステークホルダーの皆様に

株主の皆様へ

当社の考え方をご理解いただき、その結果として当社の企業価値向上に繋げていきたいと考えております。また、外部環境の変化が激しい世の中で、短期ではなく中期を見ていただく事により、投資家との建設的な対話を促進し、長期的な関係構築を進めたいと考え、2025年4月30日に中期経営計画を公表いたしました。

中長期ではAIの社会実装が進むと考えており、当社の事業機会が増えると見込んでおります。Essential市場で価値ある製品を提供する事で、長期ビジョン「Key Component Company for Essential Market」を実現し、企業理念の実現に繋げてまいります。また、長期ビジョンを踏まえて「ソリューションプロバイダーとして顧客価値を創出する」を中期経営方針として掲げております。

上期の経営実績を鑑みても中期経営計画は順調に進捗しております。中期経営計画の前倒しも含めて、成長戦略（事業領域の拡大、ニッチトップによる付加価値の向上）および地域戦略を加速してまいります。



株主還元についてお願いします。

当社は、健全・堅実な経営により強固な財務体質を堅持するとともに、経営活動の成果を明確な形で株主の皆様に還元することを基本方針としております。

上記の基本方針と当期の業績等を総合的に勘案し、中間配当については1株当たり45円、期末配当については1株当たり45円とし、年間90円を予定しております。



株主の皆様に一言お願いします。

当社は、創業以来、素材開発、プロセスエンジニアリング開発、評価技術開発を推進し、それまで不可能と考えられていたものを製品化、量産化することで、世界中のお客様と共に、豊かな社会の発展に貢献してまいりました。

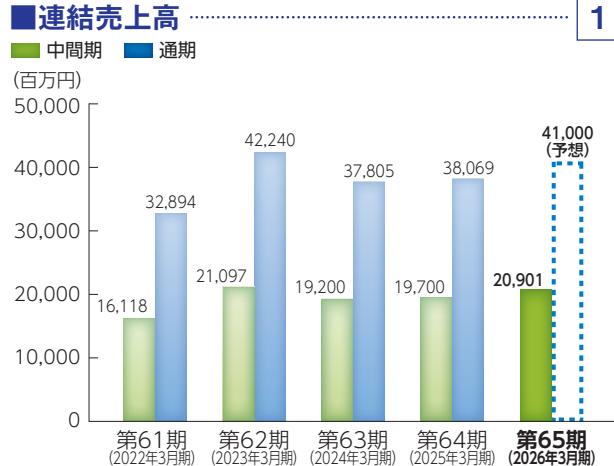
金属ギヤの代替から始まった当社の事業も、今では、半導体、ライフサイエンス、モビリティ、高速光通信などの幅広い分野に展開し、これまでに培った技術基盤をもとに、お客様の価値向上につながるソリューションを提供しております。

現在、環境問題や、高齢化社会、より高度化する情報社会など、持続可能な未来へ向けた課題が浮き彫りになっています。当社は、人と地球のQOLを高めるEssentialな事業分野において、これらの社会課題を解決し、持続可能な社会に貢献できるソリューション技術の展開、開発を進めてまいります。

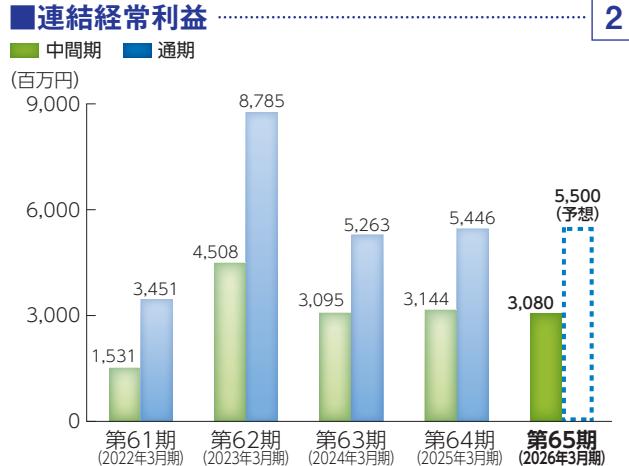
不連続な変化が当たり前におこる現在の世の中においても、変化に即応できるスピード感を持ち、当社の技術力をさらに磨きながら、幅広い産業の未来課題の解決に挑戦してまいります。

今後とも、株主の皆様にはより一層のご支援とご鞭撻を賜ります様、よろしくお願い申し上げます。

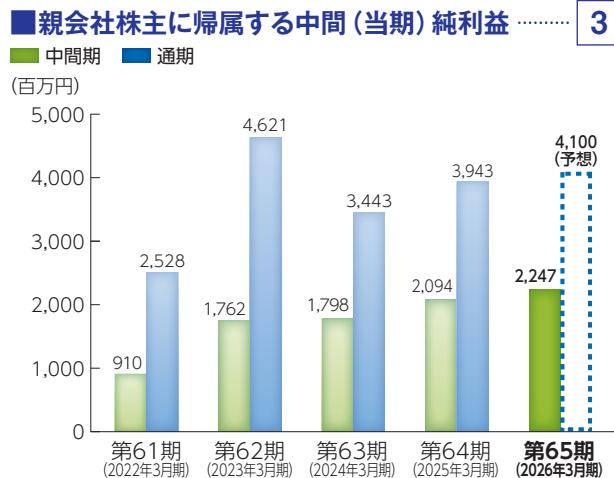
連結業績の推移



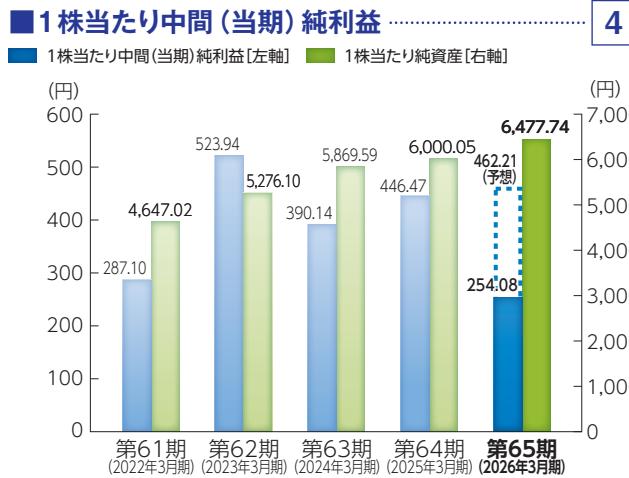
1



2



3

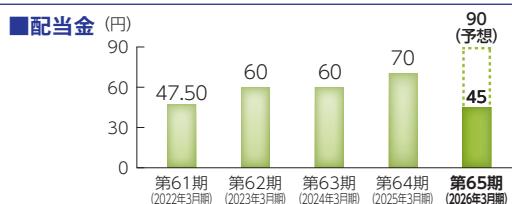


4

株主還元について

1株当たり
配当金90円

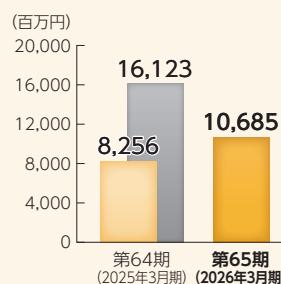
当社では、経営活動の成果を明確な形で株主の皆様に還元することを基本方針とし、また、安定的配当の考え方を取り入れ、今期以降の業績予想を勘案して、中間配当を含む年間配当は1株当たり90円を予定しております。



事業別概況

Semiconductor事業

■ 売上高



■ 営業利益



Life Science事業

■ 売上高



■ 営業利益



各種ICテスト用ソケット、バーンインソケットは、サーバー用途、自動車用途およびモバイル用途の需要が増加し、売上高は好調に推移しました。さらに競争力を高めるためのソリューション開発を積極的に進めており、また将来の成長に向けたテスト用ソケットの技術開発にも注力してまいります。

遺伝子検査用製品は、一部量産品の生産終了に伴う一時的な販売増加により売上高は好調に推移しました。この結果、当中間連結会計期間の売上高は2,620百万円、セグメント営業利益は536百万円となりました。

Digital Communication事業

■ 売上高



■ 営業利益



Energy Saving Solution事業

■ 売上高



■ 営業利益



光通信関連の光学デバイスは、AI用途等のハイエンド領域において顧客の次世代製品の量産遅延、レンズコネクタ関連の新規製品の立ち上げ遅れにより、売上高は低調に推移しました。LED用拡散レンズは、液晶テレビ市場の需要減少が継続し、売上高は低調に推移しました。

自動車用部品は、自動車市場が好調に推移する中で当社が注力する低騒音・高効率ギヤソリューションビジネスの拡販により売上高は堅調に推移しました。一方、プリンター用部品は需要の反動減により売上高は低調に推移しました。

ESGの取り組み

Environment (環境)

環境方針

エンプラスは、エンジニアリングプラスチック及びその複合材による、高精度・高機能プラスチック精密機構部品・製品の開発、製造、販売に関わるあらゆる面で、地球環境の保全を企業の果たすべき重要な課題として捉え、その保護活動に積極的に取り組みます。

1. 環境目標を設定し、それを達成するために全社的な環境管理システムを構築し、継続的な改善向上を図ります。
2. 業務の合理化や改善等を通じ、環境負荷の低減・省エネルギー（電力使用量等削減／CO₂削減）を推進します。
3. 廃プラスチックの削減と再資源化を推進します。
4. サプライヤーとの協働により調達品の環境負荷低減に努めます。
5. 環境規制や環境協定等を順守します。
6. 企業活動から汚染を排出しないようその予防に努めます。
7. 社会の一員として、地域の環境保護や維持に貢献します。

《適用範囲》

組織の単位・物理的境界	区分	適用範囲	
工株 ソシテイ ブ会 社ス	グローバル本社 本社 鹿沼工場	自己宣言 自己宣言 審査登録	エンジニアリ ングプラスチック 及びその複合 材料によるプラ スチック精密機 構部品・製品の 開発、製造
国 内 グ ル ー フ 会 社	株式会社エンプラス 研究所	自己宣言	
	株式会社エンプラス 半導体機器	自己宣言	
	QMS株式会社	自己宣言	

Social (社会)

エンプラス品質方針

お客様に感謝されるより良い品質の製品とサービスを提供します。

1. エンジニアリングプラスチックを基盤とした総合技術による確かな品質で、世界市場のニーズに応え、社会の発展に貢献します。
2. 法令、規制、お客様の要求事項を遵守し、お客様から信頼を得られるよう行動します。
3. 品質マネジメントシステムの継続的な改善により、あらゆる変化に対応できる品質基盤を堅持します。

2020年6月10日改定

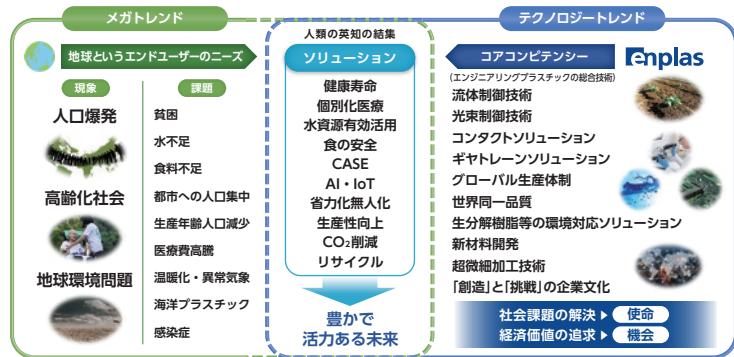
Governance (ガバナンス)

コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

当社の経営方針・企業精神・企業倫理を具現化したものが企業理念であり、社会の発展に寄与すべき企業使命を明確にするとともに当社のコーポレート・ガバナンスの基本原則となっております。その企業理念に基づき、持続的な企業価値の向上を実現する為に、「エンプラス コーポレート・ガバナンス ポリシー」を制定し、コーポレート・ガバナンスの継続的な充実に取り組んでおります。

株式会社エンプラスは創業以来、素材開発、プロセスエンジニアリング開発、評価技術開発を推進し、それまで不可能と考えられていたものを製品化、量産化することで、世界中のお客様と共に、豊かな社会の発展に貢献してまいりました。当社グループの経営方針・企業精神・企業倫理を具現化したものが企業理念であり、社会の発展に寄与すべき企業使命を明確にするとともに当社グループのコーポレート・ガバナンスの基本原則となっております。また、世界市場のニーズに応える高付加価値製品とサービスを提供することで、現在では海外売上高比率80%、世界14の国と地域で事業を行なうグローバル企業へと発展しています。

近年、企業存続に向けたESGやSDGsへの取り組みや情報開示に対する社会の要請が高まっており、当社グループでは、社長のリーダーシップのもと、当社グループのコアコンピテンシーと社会課題を紐付けた「エンプラスの目指す姿」を策定するとともに、人財の育成やSDGs、次世代工場など幅広い領域において、当社グループの総合力の向上につなげる取り組みを進め、従業員に向けた情報発信も行っています。



重要課題(マテリアリティ)の策定

当社グループが取り組むべき重要課題を特定し、特定したマテリアリティに対し目標を設定しました。

最重要課題: 人と地球のQOLを高めるEssential領域への貢献

取り組み内容	KPI	SDGs
事業 Essential領域への事業ポートフォリオ転換 人々が「安心で快適な生活」を送るために必要不可欠であり、地球環境への負荷が低い社会の発展に貢献するソリューションを提供することで、社会課題の解決と経済価値の追求を目指しております。具体的な各事業の方向性は下記になります。	新製品比率	<ul style="list-style-type: none"> 3 SUSTAINABLE INDUSTRY AND INNOVATION 6 普及するエネルギーと資源の供給 7 CHEAP AND RELIABLE ENERGY 9 経済成長と持続可能な開発 11 SUSTAINABLE CITIES AND COMMUNITIES
Semiconductor 安心・安全・快適・クリーンに生活できるスマート社会実現に向けたソリューションの提供		
Life Science 安心・安全・信頼される医療に貢献する製品開発・ソリューションの提供		
Digital Communication デジタル・インフラ業界の豊かな社会の発展に貢献するソリューションの提供		
Energy Saving Solution モビリティの電動化・軽量化・安全性に対応するソリューションの提供により、エネルギー効率の向上に貢献		
環境 生産性向上と環境負荷の低減 生産性を向上することにより、当社グループ内での電力消費、プラスチック廃棄による環境への負荷を削減してまいります。	CO ₂ 排出量 (Scope1・2) 樹脂材料廃棄率 (樹脂材料廃棄量/樹脂材料投入量)	
人材 組織力向上 働きやすい職場環境を整えることで、多様な人材を活かし社員が安全に安心して挑戦できる環境と風土を構築してまいります。	組織力向上への環境づくり (女性管理職比率/海外拠点における管理職に占める外国人比率/男性育児休暇取得率)	<ul style="list-style-type: none"> 5 ジンジニアリングと人材開発 8 経済的成長と雇用機会

気候変動問題への取り組み(TCFD提言に基づく報告)

当社グループでは、気候変動は世界が直面している重大な課題であると認識し、GHG排出削減に向けた施策の推進など、気候変動に関する取り組みとTCFD提言に沿った情報開示の継続的な改善を行い、企業価値向上に努めてまいります。

気候変動関連のリスクと事業機会

気候変動を含む将来の社会課題に関する事業機会とリスクは下記の通りです。

区分	マテリアリティ	リスク	事業機会	時間軸
移行リスク	気候変動に伴う原材料価格・電力価格の上昇	原材料価格・電力価格上昇による事業コストの増加	生分解性樹脂材料の開発とリサイクル材の積極的な活用	中期
	プラスチック規制の強化	プラスチック廃棄物処理コストの増加	樹脂材料使用を減少させる設計や金型の開発を促進	長期
	モビリティの電動化	内燃機関関連製品需要の減少	電動モビリティ用製品需要の拡大	長期
物理リスク	大規模自然災害	気象災害、特に洪水などによる自社工場被害やサプライチェーンの分断による工場操業停止	水・食料供給関連事業の拡大(殺菌、検査、点滴灌水)	長期

指標と目標

当社グループの最重要課題である「人と地球のQOLを高めるEssential領域への貢献」を測る指標として、「新製品比率」、「CO₂排出量」、「樹脂材料廃棄率」、「組織力向上への環境づくり」を設定し、中期目標を掲げ、毎年進捗を評価していきます。

KPI	2022年度実績	2023年度実績	2024年度実績	2030年度目標
新製品比率	58%	58%	55%	50%以上
CO ₂ 排出量(t-CO ₂) Scope1・2	21,236	18,515	16,396	40%削減 ※2023年度比
樹脂材料廃棄率 廃棄量/投入量	3.6%	6.0%	3.6%	3.0%
女性管理職比率(国内)	—	—	5.3%	15%
海外拠点における管理職に占める外国人比率	66.3%	64.1%	64.4%	75%
男性育児休暇取得率(国内)	17%	13%	100%	100%

会社概要 / 株式情報 / 株主メモ

(2025年9月30日現在)

(2025年9月30日現在)

会社概要

商 号 株式会社エンプラス
所 在 地 埼玉県川口市並木2丁目30番1号
設 立 1962年2月21日
資 本 金 80億8,045万円

株式情報

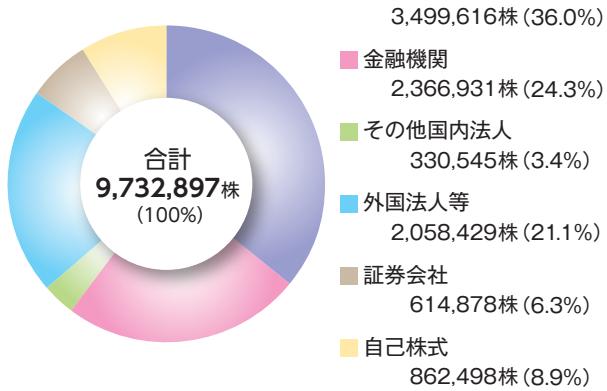
発行可能株式総数 62,400,000株
発行済株式総数 9,732,897株
株主数 3,764名

(2025年6月26日現在)

取締役

代表取締役社長	横田 大輔
取締役兼専務経営執行役員	椎名 聰
取締役兼経営執行役員	藤田 慎也
社外取締役	赤塚 孝江
社外取締役(監査等委員)	井植 敏雅
社外取締役(監査等委員)	久田 真佐男
社外取締役(監査等委員)	天羽 稔
取締役(監査等委員)	沓沢 茂雄

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年の3月31日まで
定時株主総会 毎年6月
株主名簿管理人 みずほ信託銀行株式会社
郵便物送付先、連絡先 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号
〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部(お問い合わせ) ☎ 0120-288-324
基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
公告方法 電子公告 (<https://www.enplas.co.jp/>)
ただし、電子公告によることができないときは、日本経済新聞に掲載する方法とします。
貸借対照表、損益計算書は、決算公告に代えてEDINET(<https://disclosure2.edinet-fsa.go.jp/>)にて開示しております。
上場金融商品取引所 東京証券取引所

グローバルネットワーク

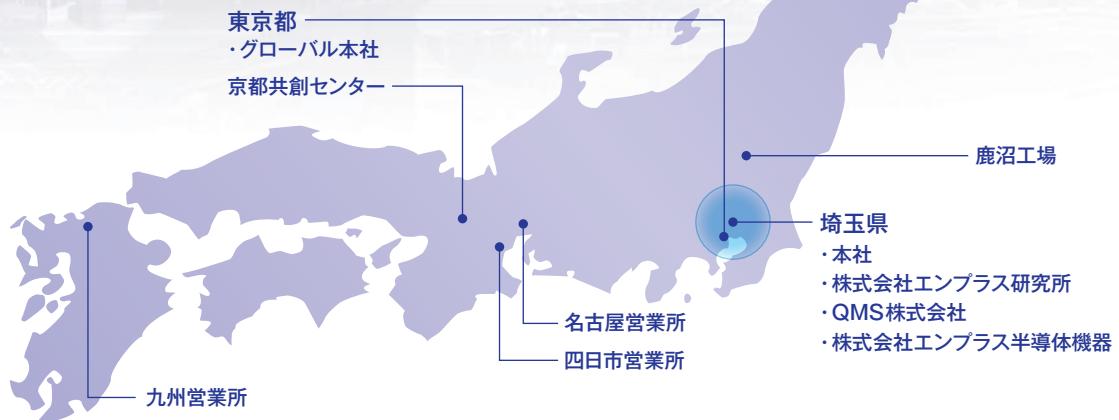
■ 国内ネットワーク

グローバル本社

東京都千代田区丸の内1丁目6番2号 新丸の内センタービルディング9F

本社

埼玉県川口市並木2丁目30番1号



本社



鹿沼工場



株式会社エンプラス半導体機器



QMS株式会社



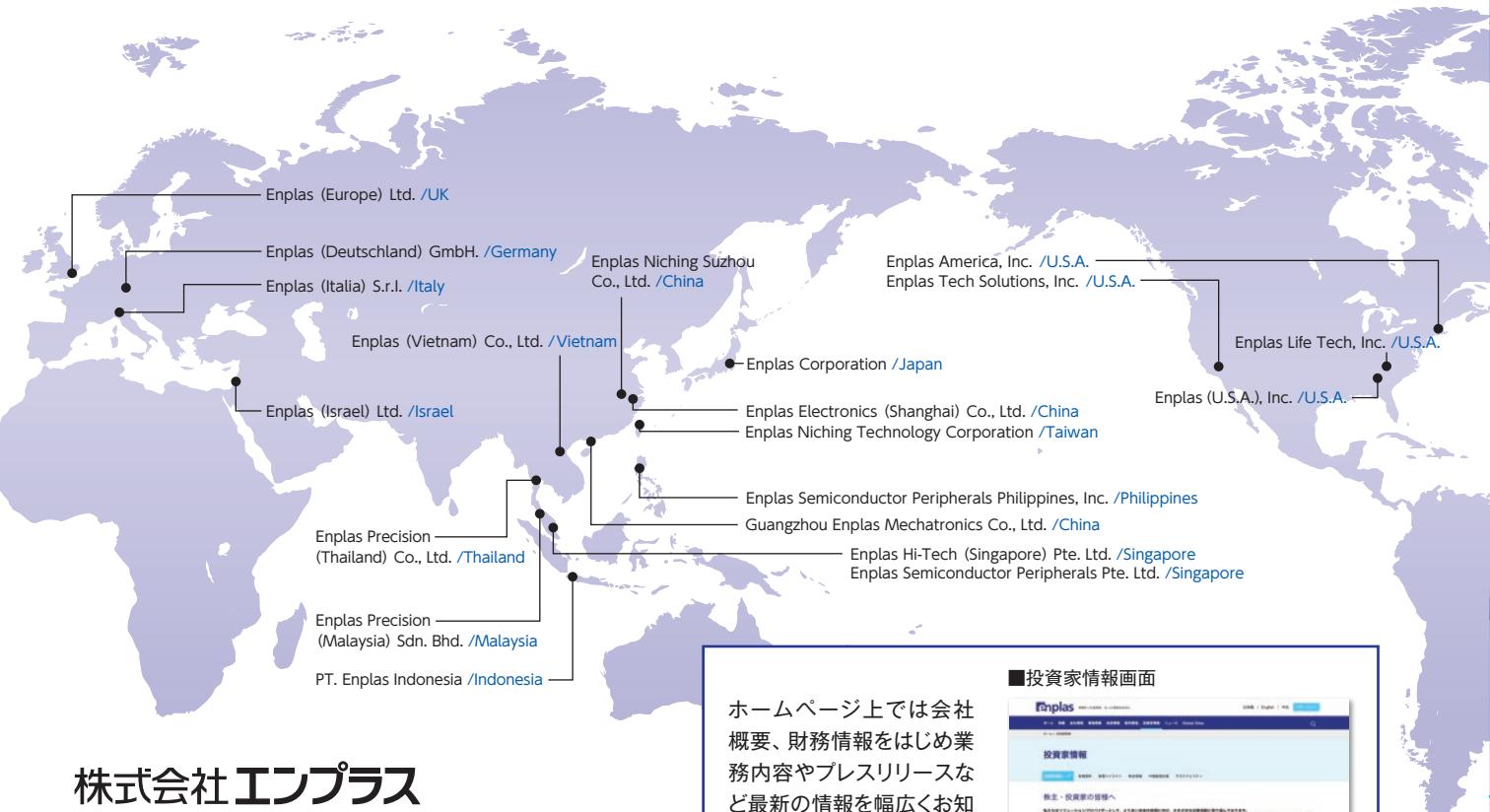
株式会社エンプラス研究所

グローバルネットワーク

■ 海外ネットワーク

技術の絆。信頼の絆。活躍の舞台はグローバルです。

アジア、アメリカ、ヨーロッパにある世界拠点を結ぶグローバルネットワークによって24時間稼働し続ける「エンプラス」グループ。こうしたグローバルネットワークを通じて、企画・開発段階から、各産業界のトップメーカーと技術に裏打ちされた信頼のパートナーシップを構築。世界企業としてエンプラスは、さらに大きく羽ばたこうとしています。



株式会社エンプラス

〒332-0034 埼玉県川口市並木2丁目30番1号

Tel : 048-253-3131 (代表) Fax : 048-255-1688

<https://www.enplus.co.jp/>



エンプラス IR 検索

■投資家情報画面

